

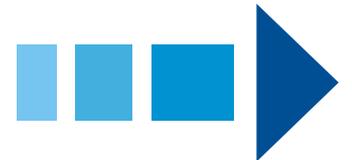


印旛沼について

H30／6／29

環境推進市民会議委員

福井 章夫



印旛沼流域図 (印旛沼流域水循環健全化会議HPより)

500 Km²
千葉県のご1割の面積

流入河川

江川、鹿島川、師戸川、戸神川、神崎川、新川、印旛疎水路、高崎川、桑納川、長門川、蔣監川

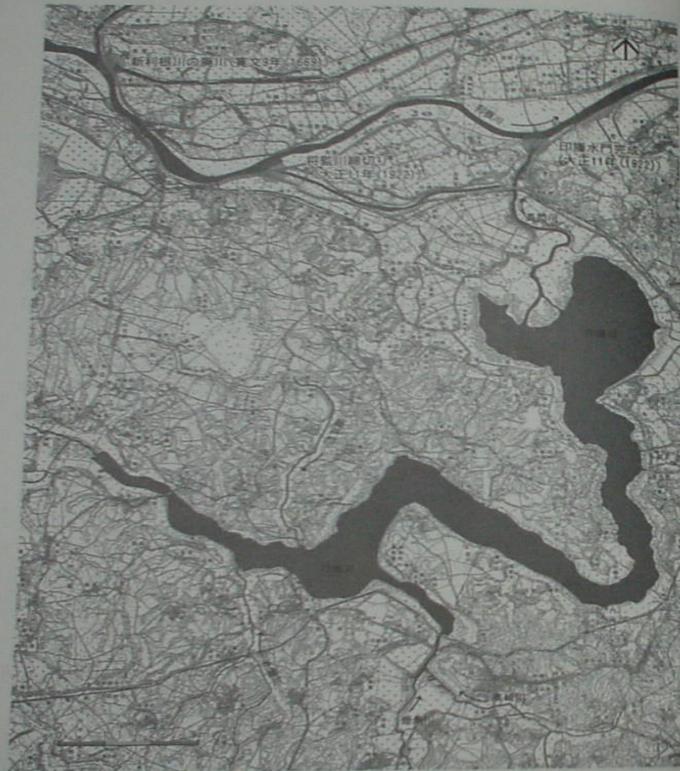
COD 10mg/L (環境基準の4倍)



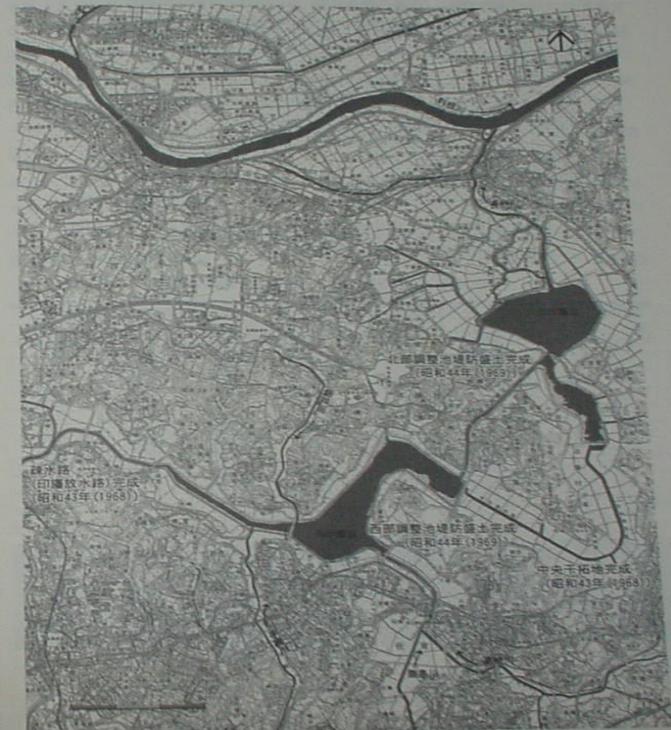
印旛沼マップ



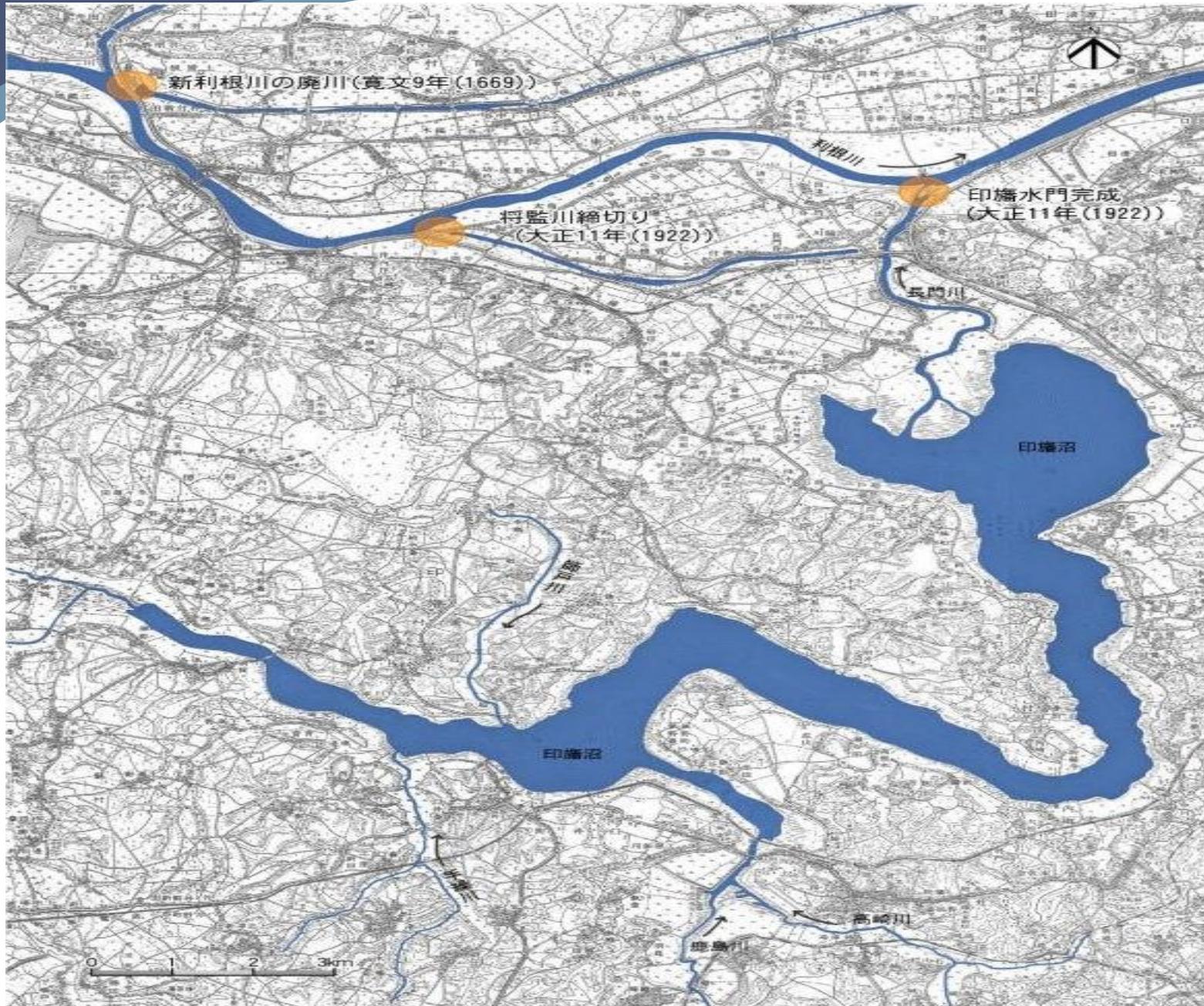
戦前と今の印旛沼

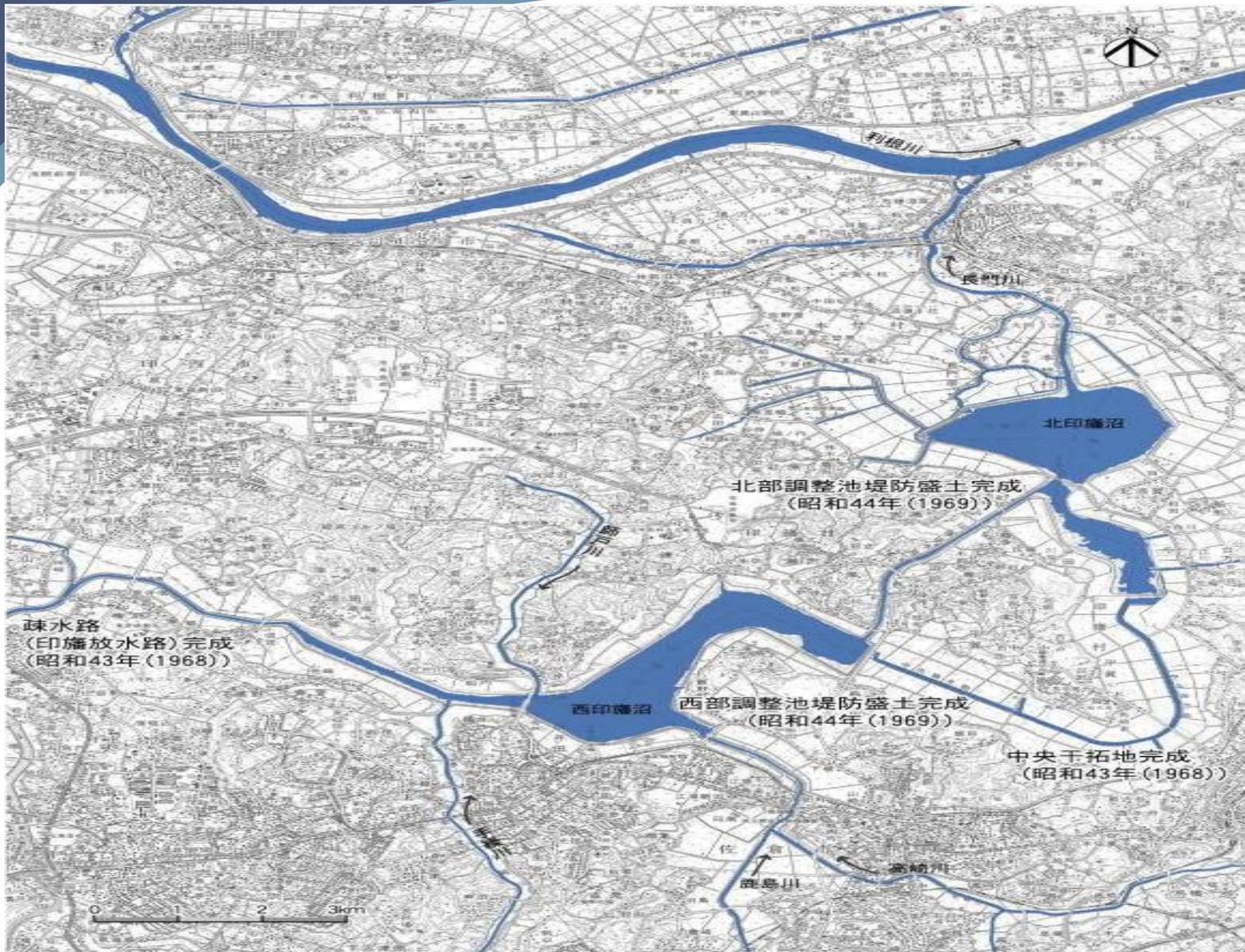


第2.1図 「印旛沼開発事業」前における印旛沼の形状



第2.2図 「印旛沼開発事業」後における印旛沼の形状





現在の印旛沼諸元

表1 「印旛沼開発事業」後における印旛沼の諸元

諸元	北印旛沼	西印旛沼	合計
水面積(km ²)	6.26	5.29	11.55
湛水量(千m ³)		19,700	19,700
周囲長(km)		26.4	26.4
流域面積(km ²)	81.68	412.2	493.89
水深(m)	平均:1.7、最深:2.5		
管理水位(m)	・灌漑期:Y.P.2.5		・非灌漑期:Y.P..2.3
滞留日数(日)	約22		
印旛捷水路(km)	4.31		

【備考】 ①干拓前の水面積は約29.0Km²

②印旛捷水路は指定延長(印旛土木事務所)

③[湖沼水質保全特別措置法]に基づく指定地域

印旛沼の水利用

- 自然流入量 4.3億トン(年間)
- 利水量 2.9億トン(放流を除く)
- 工業用水 JFE 1.8トン毎秒(10%)
五井地区工場 5トン毎秒(26%)
水道水 (7.6%)
農業用水 (13%)
放流 (43%)

(2005年～2009年平均)

印旛沼の漁業

漁獲量

昭和55年代 950トン ウナギ28トン、コイ250トン
平成16年激減 81トン ウナギ1トン、コイ9トン
平成20年 156トン ウナギ2トン、コイ20トン

開発事業以前の印旛沼には鮭、マルタ、ボラなど利根川から遡上してきた魚種、シラウオ、モツゴ、キンブナ、ギンブナ、ナマズ、モクズガニ、スジエビ、マシジミなど
在来の魚類・甲殻類・貝類、ビワヒガイ、ゲンゴロウブナ、カワムツ、ゼゼラなどの
移入魚種と、まさに多種多様な魚介類が生息していた。

開発後は、消滅した種も少なくはないが、代わってカムルチー、ハクレン、オオクチバス、ブルーギル等の外来種を含め、現在、次ページに示すように[千葉県水産総合センター内水面水産研究所]40種の魚種が確認(張網による漁獲調査結果)されている。

近年の印旛沼確認魚種

在来種：コイ、アカヒレタビラ、クルマサヨリ、ギンブナ、ニゴイ、ヤリタナゴ、トウヨシノボリ、キンブナ、モツゴ、ヌマチチブ、ウグイ、シラウオ、ジュズカケハゼ、ドジョウ、オイカワ、アシシロハゼ、ナマズ、ウキゴリ、ギバチ、ウナギ、アユ、ワカサギ、サケ、ボラ、スズキ

移入種：ゲンゴロウブナ、ハス、タモロコ、ワタカ、ツチフキ、スゴモロコ、カネヒラ、オオクチバス、タイリクバラタナゴ、カムルチ、アメリカナマズ、ハクレン、ビワヒガイ、オオタナゴ

印旛沼関連水機場

- ・印旛水門(安食、長門川、利根川)
- ・印旛排水機場(S35年)
- ・酒直水門、水機場(S41年)
- ・一本松揚水機場(北総台地、農業用水)
- ・大和田排水機場(花見川)
- ・上水機場(佐倉、水資源公団)
- ・工業用水機場(佐倉2箇所、水資源公団)
(全20箇所)
(水機場フル運転すると印旛沼は2日で干上がる)

印旛沼水機場・調圧水槽・ 一本松用水



一本松用水(全長27Km,毎秒 1.5~3トン、4~10月) 1968年から供用(1反当り8~7 千円水料金)







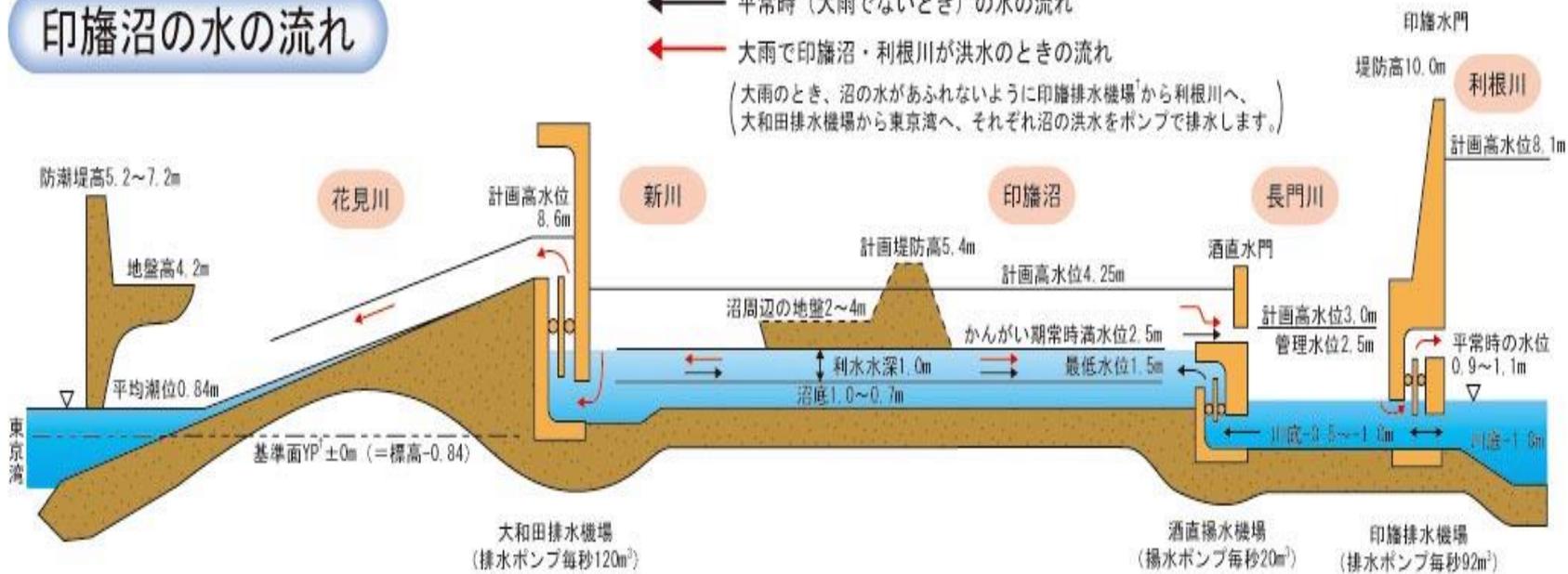


印旛沼の水の流れ

(印旛沼流域水循環健全化会議HPより)

印旛沼の水の流れ

- ← 平常時（大雨でないとき）の水の流れ
- ← 大雨で印旛沼・利根川が洪水のときの流れ
 （大雨のとき、沼の水があふれないように印旛排水機場から利根川へ、大和田排水機場から東京湾へ、それぞれ沼の洪水をポンプで排水します。）



ご静聴有難うございました。

参考文献：印旛沼の話（印旛沼環境基金）、印旛沼土地改良区史、